(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2018-100105
(P2018-100105A)
(43)公開日　平成30年6月28日(2018.6.28)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B65D 83/20	(2006.01)	B65D	83/20	100	3E014

審査請求 未請求　請求項の数 10　ＯＬ　（全 23 頁）

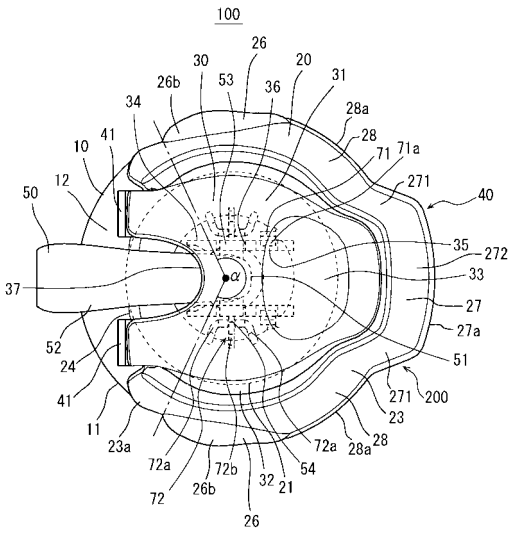
(21)出願番号　特願2016-246010 (P2016-246010)
(22)出願日　平成28年12月19日 (2016.12.19)

(71)出願人　000000918
花王株式会社
東京都中央区日本橋茅場町１丁目１４番１０号
(74)代理人　100137589
弁理士　右田　俊介
(72)発明者　上原　一之
東京都墨田区文花２－１－３　花王株式会社研究所内
(72)発明者　山田　孝
東京都墨田区文花２－１－３　花王株式会社研究所内

Ｆターム(参考)　3E014 PA01 PB03 PB04 PC02 PD01 PE14 PF10

(54)【発明の名称】エアゾール容器

(57)【要約】
【課題】より良好な操作性を実現しうる構造のエアゾール容器を提供する。
【解決手段】エアゾール容器１００は、容器本体１０の上端部を構成するマウンテンカップ１４に取り付けられているカバー部２０と、使用者による押圧操作を受け付ける操作部３０と、ステム１５に取り付けられていて吐出口５０ａを有するノズル部５０と、を備えている。カバー部２０の下縁は指掛け部（例えば、切欠形状部２６、中間指掛け部２８ａ及び後方指掛け部２７ａを含む）を含んでいる。指掛け部は、容器本体１０の少なくとも半周に亘って配置されている。
【選択図】図５



【特許請求の範囲】
【請求項１】
容器本体の上端部を構成するマウンテンカップに取り付けられているカバー部と、
使用者による押圧操作を受け付ける操作部と、
ステムに取り付けられていて吐出口を有するノズル部と、
を備え、
前記カバー部の下縁は指掛け部を含み、
前記指掛け部は、前記容器本体の少なくとも半周に亘って配置されているエアゾール容器。
【請求項２】
前記ノズル部は、前記容器本体の径方向における一方向に向けて前記ステムから突出しており、
前記ノズル部の突出方向を前方とすると、前記カバー部は、前後方向に対して直交する左右方向における両端部の各々に配置されていて前側を向き前記指掛け部の一部分を構成する前向き壁部を含む請求項１に記載のエアゾール容器。
【請求項３】
前記カバー部は、左右方向における両端部の各々に配置されていて前方かつ下方に向けて開放している切欠形状部を有し、
前記前向き壁部は、前記切欠形状部の後部により構成されている請求項２に記載のエアゾール容器。
【請求項４】
前記指掛け部は、前記切欠形状部の前部により構成されていて下側を向く下向き壁部を含む請求項３に記載のエアゾール容器。
【請求項５】
前記操作部は前記カバー部に軸支されており、
前記ノズル部は、前記容器本体の径方向における一方向に向けて前記ステムから突出しており、
前記ノズル部の突出方向を前方とすると、前記カバー部に対する前記操作部の軸支部は、前記カバー部の前端部に配置されており、
前記操作部において使用者に押圧される押圧部は、前記操作部において押圧力を前記ステムに伝達する伝達部よりも後方に配置されている請求項１から４のいずれか一項に記載のエアゾール容器。
【請求項６】
前記カバー部は、前記容器本体の後部に配置されていて後方に向けて突出している後方突出部を有し、
前記カバー部は、前記マウンテンカップに装着される環状装着部を有し、
前記押圧部の後端が前記環状装着部よりも後方に配置されており、前記後方突出部が前記押圧部の後端よりも後方に配置されている請求項５のいずれか一項に記載のエアゾール容器。
【請求項７】
前記後方突出部の下縁は、前記指掛け部の一部分を構成している請求項６に記載のエアゾール容器。
【請求項８】
前記ノズル部は、
前記伝達部から押圧力を受ける受部と、
被ガイド部と、
を有し、
前記カバー部は、前記被ガイド部を上下に直線的にガイドするガイド部を備え、
前記操作部の前記伝達部から前記ノズル部の前記受部に押圧力が加わることにより、前記ガイド部によって前記被ガイド部がガイドされつつ、前記ノズル部を介して前記ステム

が押圧される請求項５から７のいずれか一項に記載のエアゾール容器。
【請求項９】
前記ノズル部は、前記容器本体の径方向における一方向に向けて前記ステムから突出しており、
前記ノズル部の突出方向を前方とすると、前記カバー部の全体が前記容器本体の前端よりも後方に配置されている請求項１から８のいずれか一項に記載のエアゾール容器。
【請求項１０】
エアゾール容器の容器本体に装着されるアタッチメントであって、
容器本体の上端部を構成するマウンテンカップに取り付けられるカバー部と、
使用者による押圧操作を受け付ける操作部と、
吐出口を有し、ステムに取り付けられるノズル部と、
を備え、
前記カバー部が前記マウンテンカップに取り付けられた状態で、前記カバー部の下縁は指掛け部を含み、前記指掛け部は、前記容器本体の少なくとも半周に亘って配置されるアタッチメント。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、エアゾール容器及びそのアタッチメントに関する。
【背景技術】
【０００２】
特許文献１には、マウンテンカップに装着されたカバー部（同文献のカバー体）を有するエアゾール容器が記載されている。このエアゾール容器のカバー部の側周面には左右一対のプレート状の指掛け部が設けられている。同文献には、手の親指を一方の指掛け部に掛け、他方の指掛け部に中指を掛けて、人差し指で操作ボタンを押下操作する旨が記載されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２００５－１２６０９０号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、特許文献１の技術では、指掛け部がカバー部の左右両側部にそれぞれ局部的に配置されているだけであることから、エアゾール容器の操作性に関し、改善の余地がある。
【０００５】
本発明は、上記の課題に鑑みてなされたものであり、より良好な操作性を実現しうる構造のエアゾール容器に関する。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
本発明は、容器本体の上端部を構成するマウンテンカップに取り付けられているカバー部と、
使用者による押圧操作を受け付ける操作部と、
ステムに取り付けられていて吐出口を有するノズル部と、
を備え、
前記カバー部の下縁は指掛け部を含み、
前記指掛け部は、前記容器本体の少なくとも半周に亘って配置されているエアゾール容器を提供する。
【０００７】

また、本発明は、エアゾール容器の容器本体に装着されるアタッチメントであって、
容器本体の上端部を構成するマウンテンカップに取り付けられるカバー部と、
使用者による押圧操作を受け付ける操作部と、
吐出口を有し、ステムに取り付けられるノズル部と、
を備え、
前記カバー部が前記マウンテンカップに取り付けられた状態で、前記カバー部の下縁は指掛け部を含み、前記指掛け部は、前記容器本体の少なくとも半周に亘って配置されるアタッチメントを提供する。

【発明の効果】

【０００８】

本発明によれば、指掛け部が容器本体の少なくとも半周に亘って配置されていることによって、より良好な操作性を実現することができる。すなわち、指掛け部に対して指を掛ける位置の選択の自由度が高まるため、手の大きさや指の長さ、握力などに応じて、適切な方法で指掛け部に対して指を掛けて、操作部を操作することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【０００９】

【図１】第１実施形態に係るエアゾール容器を斜め前方から視た全体斜視図である。
【図２】第１実施形態に係るエアゾール容器を斜め後方から視た全体斜視図である。
【図３】第１実施形態に係るエアゾール容器の上部の側面図である。
【図４】第１実施形態に係るエアゾール容器の上部の側断面図である。
【図５】第１実施形態に係るエアゾール容器の平面図である。
【図６】第１実施形態に係るエアゾール容器の底面図である。
【図７】第１実施形態に係るエアゾール容器の上部の正面断面図であり、図４のＡ－Ａ線に沿った矢視断面図である。
【図８】第１実施形態に係るエアゾール容器の上部の斜視図であり、係止爪部と係止孔とが係合していない状態を示す。
【図９】第１実施形態に係るエアゾール容器の平面図である（ただし、操作部の図示を省略している）。
【図１０】図１０（ａ）及び図１０（ｂ）は第１実施形態に係るエアゾール容器のキャップを示す図であり、このうち図１０（ａ）はキャップの装着動作を示す側面図、図１０（ｂ）はキャップを装着した状態のエアゾール容器の平面図である。
【図１１】第１実施形態に係るエアゾール容器の使用方法の一例を示す側面図である。
【図１２】第２実施形態に係るエアゾール容器の平面図である。
【図１３】第２実施形態に係るエアゾール容器の上部の側面図である。
【図１４】第２実施形態に係るエアゾール容器の上部を斜め前方から視た斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【００１０】

以下、本発明の実施形態について、図面を用いて説明する。なお、すべての図面において、同様の構成要素には同一の符号を付し、重複する説明は適宜に省略する。

【００１１】

〔第１実施形態〕

先ず、図１から図１１を用いて第１実施形態を説明する。

本実施形態において、エアゾール容器１００の各構成要素の位置関係（上下関係等）の説明は、特に断りのない場合は、図１１に示すように容器本体１０の円筒状の胴部１１の軸方向を上下方向に配置した状態での位置関係を説明したものである。すなわち、容器本体１０は底部１６を有しており、底部１６を水平な載置面上に載置した際には、エアゾール容器１００は、胴部１１の軸方向が上下方向に延在する姿勢で自立する。そして、下記の説明において、上及び下とは、エアゾール容器１００を水平な載置面上で自立させたときの上下方向を意味する。ただし、エアゾール容器１００を手で持ったときの上下方向は、必ずしも下記の説明における上下とは一致しない。また、図１１における左方を前方、

右方を後方という。

【００１２】

本実施形態に係るエアゾール容器１００は、容器本体１０の上端部を構成するマウンテンカップ１４に取り付けられているカバー部２０と、使用者による押圧操作を受け付ける操作部３０と、ステム１５に取り付けられていて吐出口５０ａを有するノズル部５０と、を備えている。カバー部２０の下縁は指掛け部（例えば、切欠形状部２６、中間指掛け部２８ａ及び後方指掛け部２７ａを含む）を含んでいる。指掛け部は、容器本体１０の少なくとも半周に亘って配置されている。

【００１３】

ここで、指掛け部が容器本体１０の少なくとも半周に亘って配置されているとは、（１）指掛け部が容器本体１０の周方向における半周以上に亘って連続的に配置されていること、又は、（２）指掛け部が容器本体１０の周方向における複数箇所に分散して配置されていて且つこれら指掛け部の延べ角度範囲が容器本体１０の周方向における半周以上であることを意味する。したがって、例えば、容器本体１０の周方向においてそれぞれ９０度以上の角度範囲に亘って延在する２つの指掛け部が配置されていてもよい。

指掛け部が配置されている範囲は、容器本体１０の周方向における半周を超えていることが好ましく、容器本体１０の周方向における２／３以上の範囲（つまり２４０度以上の範囲）に存在していてもよい。

また、指掛け部は、カバー部２０の下縁において、容器本体１０の外面から外方に突出している部位である。

容器本体１０の外面からの、指掛け部の突出長は、カバー部２０における指掛け部以外の部分の肉厚よりも大きいことが好ましい。但し、カバー部２０における指掛け部以外の部分の肉厚が十分厚い場合、指掛け部が指掛けの機能を満たす限りにおいて、指掛け部は指掛け部以外の部分の肉厚と同じでも良い。また、指掛け部は、容器本体１０の肩部１２や胴部１１との間に空間を設けて設置されていて指掛けの機能を満たすような段差を有するものでも良く、この場合でも指掛け部は指掛け部以外の部分の肉厚と同じでも良い。

より詳細には、指掛け部（切欠形状部２６、中間指掛け部２８ａ、後方指掛け部２７ａ）は、カバー部２０の下縁において、容器本体１０の外面から外方に向けてフランジ状に突出している。

エアゾール容器１００の使用時には使用者が指掛け部に対して指を掛けることができるようになっている。

複数の指掛け部が分散して配置されている場合、隣り合う指掛け部どうしの距離は２ｃｍ以内であることが好ましく、１ｃｍ以内であることが更に好ましい。このようにすることによって、より一層、指掛け部に対して指を掛けやすくなる。

【００１４】

容器本体１０は、例えば、金属製の缶容器であり、円筒状の胴部１１と、胴部１１の下端を閉塞している底部１６と、胴部１１の上側に連接されていて上方に向けて徐々に縮径している肩部１２と、を備えている。

【００１５】

容器本体１０は、更に、容器本体１０の天面を構成するマウンテンカップ１４を備えている。すなわち、容器本体１０の上端部は、マウンテンカップ１４を含んで構成されている。

マウンテンカップ１４は、その周縁部において、肩部１２の上端縁に対して巻き締め固定されている。すなわち、マウンテンカップ１４と肩部１２とは、マウンテンカップ１４の周縁に沿った巻締部１３において相互に固定されている。

容器本体１０は、更に、マウンテンカップ１４の中央部においてマウンテンカップ１４を上下に貫通して設けられているステム１５を備えている。ステム１５は容器本体１０の胴部１１と同軸に配置されている。

容器本体１０の内部には、内容物が圧縮状態で充填されている。

ステム１５がマウンテンカップ１４に対して相対的に押し下げられることにより、容器

本体１０の内部に充填されている内容物がステム１５を介して吐出されるようになっている。
本実施形態に係るエアゾール容器１００の容器本体１０（マウンテンカップ１４及びステム１５を含む）は一般的なエアゾール容器が備える容器本体と同様の構造であるため、容器本体１０の詳細な説明は省略する。
容器本体１０に充填されている内容物の種類は特に限定されない。内容物としては、染毛剤などの毛髪化粧料、ヘアスタイリング剤、ヘアケア剤、洗顔料、シェービング剤、浴室用などの洗剤、頭髪洗浄剤等が挙げられる。また、内容物は、泡状に吐出されるものとすることができるが、非泡状の液状で吐出されるものであってもよい。

【００１６】

ノズル部５０は、例えば、ステム１５の先端部（上端部）に装着されている第１筒部５１と、第１筒部５１の先端（上端）に連接されていて第１筒部５１に対して略直交している第２筒部５２と、を含んで構成されている。
第１筒部５１は、その軸方向が上下に延在している。
第２筒部５２は、第１筒部５１の先端から、容器本体１０の径方向における一方向に向けて延出している。
すなわち、ノズル部５０は、容器本体１０の径方向における一方向に向けてステム１５から突出している。
ここで、径方向とは、円筒状の容器本体１０の軸方向に対して直交する方向である。
また、ノズル部５０の突出方向を前方とする。
第２筒部５２の先端（前端）には吐出口５０ａが形成されている。
第１筒部５１がステム１５の先端側から外嵌されることによって、ノズル部５０がステム１５に取り付けられている。
このように、ノズル部５０は、ステム１５に装着されている装着部（第１筒部５１）と、装着部から前方に延出している前方延出部（第２筒部５２）と、を有する。
ステム１５から吐出された内容物は、第１筒部５１の内部及び第２筒部５２の内部をこの順に通過して、第２筒部５２の先端の吐出口５０ａから外部に吐出される。
なお、ノズル部５０がステム１５に取り付けられた状態で、第１筒部５１、ひいてはノズル部５０の全体は、ステム１５に対して相対的に、ステム１５の軸周りに回転可能となっている。

【００１７】

図３等に示すように、ノズル部５０は、例えば、胴部１１よりも前方に突出している。
図３、図５、図８及び図９に示すように、ノズル部５０は、例えば、第１筒部５１と第２筒部５２との交差部から左右にそれぞれ突出している一対の突起部５３を有している。突起部５３は略円柱形で、且つ、円柱の中心線とステムの中心線とが交差するようになっている。これら突起部５３は、操作部３０からの押圧力を受ける受部として機能する。
ノズル部５０は、操作部３０からの押圧力を受けると、該押圧力をステム１５に伝達し、ステム１５と一体的に押し下げられる。

【００１８】

更に、ノズル部５０は、操作部３０によって押し下げられる際にカバー部２０によってガイドされる一対の被ガイド部５４を有している。
被ガイド部５４は、例えば、板面が前後方向を向いている平板状の部分であり、第１筒部５１の左右の側面にそれぞれ設けられている。一対の被ガイド部５４は、互いに同一平面上に配置されている。一対の被ガイド部５４が配置された平面は、例えば、ステム１５の軸心を含む平面である。
なお、一対の突起部５３の各々は、例えば、左右の被ガイド部５４の各々の上縁に沿って配置されている。

【００１９】

カバー部２０は、容器本体１０に対して嵌合することにより装着される平面視円環状の環状装着部２１を備えている。環状装着部２１は、下向きに開口している平面視円環状の

凹部２１ａを有している。巻締部１３が凹部２１ａ内に嵌入することによって、カバー部２０が容器本体１０に対して装着されている（図４参照）。ただし、カバー部２０、ひいてはカバーユニット４０の全体は、巻締部１３に対して（ひいては容器本体１０）に対して、容器本体１０の胴部１１の軸周りに回転可能となっている。

【００２０】

カバー部２０は、更に、環状装着部２１の下縁から平面視において外方且つ斜め下方に向けて張り出している張出部２２と、張出部２２の周縁から容器本体１０の外面に沿って下方に延びている下方延出壁部２３と、を備えている。

本実施形態の場合、張出部２２及び下方延出壁部２３は、カバー部２０の周方向において、カバー部２０の前部を除く領域の全域に亘って配置されている（図５参照）。

すなわち、張出部２２は、平面視において前向きに開放したＣ環状の部分である（図９参照）。また、下方延出壁部２３は、張出部２２の全域から下側に連なる壁部である。

張出部２２は、容器本体１０の肩部１２の一部分を覆っており（図４、図７参照）、下方延出壁部２３は、容器本体１０の肩部１２から胴部１１にかけての部位の一部分を覆っている（図４、図７参照）。

【００２１】

本実施形態の場合、張出部２２の周縁（下縁）は、全域に亘って同じ高さ位置に配置されている。つまり、張出部２２の周縁（下縁）は、水平に延在している。ただし、本発明は、この例に限らず、張出部２２の周縁は水平でなくても良い。

一方、下方延出壁部２３は、以下に説明する切欠形状部２６及び後方突出壁部２７を含んでおり、下方延出壁部２３の下縁は、部位に応じて高さが異なっている。

【００２２】

図３に示すように、下方延出壁部２３の下縁は、前方かつ下方に向けて開放している切欠形状部（切欠形状部２６）を含んでいる。切欠形状部２６は、カバー部２０の左右両端部にそれぞれ配置されている。切欠形状部２６は、例えば、側面視において弧状（Ｃ字形状）に形成されている。

左側の切欠形状部２６（前向き壁部２６ａ及び下向き壁部２６ｂ）は、容器本体１０の左側の側面から左方に向けて突出している。

右側の切欠形状部２６（前向き壁部２６ａ及び下向き壁部２６ｂ）は、容器本体１０の右側の側面から右方に向けて突出している。

左右の切欠形状部２６は、左右対称に配置されている。

【００２３】

図１、図６及び図７に示すように、切欠形状部２６の後部（下部）は、前側を向く前向き壁部２６ａとなっている。なお、前向き壁部２６ａが向く方向は、厳密にノズル部５０の突出方向と一致してなくても良く、ノズル部５０の突出方向の成分を含む方向であれば良い。左側の前向き壁部２６ａが向く方向は左方向成分を含むことが好ましく、右側の前向き壁部２６ａが向く方向は右方向成分を含むことが好ましく、これにより、各前向き壁部２６ａに対する指のフィット性が向上する。

前向き壁部２６ａは、例えば、下方に向かうにつれて後方に変位しており、前向き壁部２６ａが向く方向は下方向成分を含んでいる。

また、図１、図２、図６、図７に示すように、切欠形状部２６の前部（上部）は、下側を向く下向き壁部２６ｂとなっている。なお、下向き壁部２６ｂが向く方向は、鉛直下方でなくても良く、下向きの方向成分を含む方向であれば良い。左側の下向き壁部２６ｂが向く方向は左方向成分を含むことが好ましく、右側の下向き壁部２６ｂが向く方向は右方向成分を含むことが好ましく、これにより、各下向き壁部２６ｂに対する指のフィット性が向上する。

前向き壁部２６ａ及び下向き壁部２６ｂは、それぞれ指掛け部の一部分ずつを構成している。

【００２４】

このように、ノズル部５０は、容器本体１０の径方向における一方向に向けてステム１

５から突出しており、ノズル部５０の突出方向を前方とすると、カバー部２０は、前後方向に対して直交する左右方向における両端部の各々に配置されていて前側を向き指掛け部の一部分を構成する前向き壁部２６ａを含む。
また、カバー部２０は、左右方向における両端部の各々に配置されていて前方かつ下方に向けて開放している切欠形状部２６を有する。そして、前向き壁部２６ａは、切欠形状部の後部により構成されている。
また、指掛け部は、切欠形状部２６の前部により構成されていて下側を向く下向き壁部２６ｂを含む。
なお、本実施形態の場合、例えば、容器本体１０の外面からの下向き壁部２６ｂの突出長は、容器本体１０の外面からの前向き壁部２６ａの突出長よりも大きい。

【００２５】
エアゾール容器１００の良好な操作性を実現するため、切欠形状部２６の前後寸法は、１ｃｍ以上であることが好ましく、１．５ｃｍ以上であることがより好ましく、５ｃｍ以下であることが好ましく、３．５ｃｍ以下であることが更に好ましい。
エアゾール容器１００の良好な操作性を実現するため、切欠形状部２６の上下寸法（高さ寸法）は、例えば、１ｃｍ以上であることが好ましく、１．５ｃｍ以上であることがより好ましく、５ｃｍ以下であることが好ましく、３．５ｃｍ以下であることが更に好ましい。

【００２６】
下方延出壁部２３において切欠形状部２６よりも後方の部分であって、且つ、後述する後方突出壁部２７よりも前方の部分のことを、中間部２８と称する。
カバー部２０は、左右両側にそれぞれ中間部２８を有している。
左右の中間部２８の各々の下縁は、中間指掛け部２８ａを構成している。

【００２７】
下方延出壁部２３の後部は、容器本体１０から後方に向けて突出している後方突出壁部２７となっている。すなわち、カバー部２０は、容器本体１０の後部の後方に配置されている後方突出部（後方突出壁部２７）を有する。
より詳細には、後方突出壁部２７は、それぞれ後方に向けて起立している左右一対の後方起立壁部２７１と、これら後方起立壁部２７１の後縁の間に亘って架け渡されている背面壁部２７２と、を有している。
左側の後方起立壁部２７１は、左側の中間部２８の後縁から後方に向けて起立しており、右側の後方起立壁部２７１は、右側の中間部２８の後縁から後方に向けて起立している。

【００２８】
後方突出壁部２７は、例えば、前後方向に扁平な略直方体形状に形成されている。
図４及び図６に示すように、後方突出壁部２７は、容器本体１０の背面から後方に離間している。容器本体１０と後方突出壁部２７との間の空間の形状も、前後方向に扁平な略直方体形状となっている。
なお、図９に示すように、張出部２２の後部は、後方突出壁部２７の上端に沿った形状となっており、後方に向けて張り出している。
後方突出壁部２７は、このように後方に向けて張り出している張出部２２の後部から下方に垂下している。

【００２９】
後方突出壁部２７は、例えば、下方延出壁部２３の上端から下端まで達している。そして、後方突出壁部２７の下縁は、後方指掛け部２７ａを構成している。すなわち、後方突出部の下縁は、指掛け部の一部分を構成している。

【００３０】
左側の中間指掛け部２８ａの前端は、左側の前向き壁部２６ａの下端に連なっており、左側の中間指掛け部２８ａの後端は、後方指掛け部２７ａの左端に連なっている。
同様に、右側の中間指掛け部２８ａの前端は、右側の前向き壁部２６ａの下端に連なっ

ており、右側の中間指掛け部２８ａの後端は、後方指掛け部２７ａの右端に連なっている。

【００３１】

後方指掛け部２７ａと中間指掛け部２８ａは、それぞれ略水平に延在しており、互いに同等の高さ位置に配置されている。

【００３２】

なお、下方延出壁部２３における後方突出壁部２７以外の部分は、容器本体１０の外面に沿った湾曲形状となっており、全体に亘って容器本体１０の外面に当接ないしは近接している。

【００３３】

エアゾール容器１００の良好な操作性を実現するため、後方突出壁部２７の左右幅寸法の最大値は、例えば、容器本体１０の左右幅寸法（胴部１１の外径）の１／５以上であることが好ましく、１／４以上であることがより好ましく、１／３以上であることが更に好ましい。

エアゾール容器１００の良好な操作性を実現するため、後方突出壁部２７の左右幅寸法の最小値は、例えば、容器本体１０の左右幅寸法（胴部１１の外径）の１／１０以上であることが好ましく、１／５以上であることがより好ましい。

なお、本実施形態の場合、後方突出壁部２７は、下方に向けて左右幅寸法が大きくなっており、後方突出壁部２７の左右幅寸法の最大値は、後方突出壁部２７の下端における左右幅寸法であり、後方突出壁部２７の左右幅寸法の最小値は、後方突出壁部２７の上端における左右幅寸法である。

【００３４】

エアゾール容器１００の良好な操作性を実現するため、後方突出壁部２７の上下寸法（高さ寸法）は、例えば、胴部１１の外径の１／５以上であることが好ましく、１／３以上であることがより好ましい。

エアゾール容器１００の良好な操作性を実現するため、後方突出壁部２７の前後寸法（容器本体１０の外面から後方突出壁部２７の背面までの距離）は、例えば、３ｍｍ以上であることが好ましく、２０ｍｍ以下であることが好ましい。

【００３５】

下方延出壁部２３は、更に、切欠形状部２６の前方に配置されていて前方かつ下方に突出している突出部２３ａを有している。下方延出壁部２３は、左右両側にそれぞれ突出部２３ａを有している。カバー部２０が突出部２３ａを有していることによって、カバー部２０による容器本体１０の良好なホールド性が実現されている。

【００３６】

ここで、図５に示すように、本実施形態の場合、指掛け部（左右の切欠形状部２６、左右の中間指掛け部２８ａ及び後方指掛け部２７ａの集合体）は、容器本体１０の周方向において約２４０度の範囲（図５に示す角度αの範囲）に亘って連続的に配置されている。

したがって、指掛け部は、容器本体１０の半周を超える範囲に亘って連続的に配置されている。

ただし、図５に示すように、指掛け部は、カバー部２０の前部には配置されていない。すなわち、指掛け部はカバー部２０の前部を除く部位に配置されている。

【００３７】

図８等に示すように、カバー部２０は、更に、環状装着部２１よりも上方に突出している左右一対の係止突出部７１を有している。係止突出部７１は、柱状のものであり、係止突出部７１の先端部（上端部）には、係止爪部７１ａが形成されている。

係止突出部７１は、例えば、環状装着部２１の内周縁から上方に起立している。各係止爪部７１ａは、例えば、互いの方向に向けて突出している（図７参照）。

【００３８】

カバー部２０は、更に、ノズル部５０の被ガイド部５４を上下に直線的にガイドするガイド部７２をノズル部５０の第１筒部５１の左右両側にそれぞれ備えている。

ガイド部７２は、例えば、被ガイド部５４の前面及び背面をそれぞれガイドする前後一対の挟持用リブ７２ａと、被ガイド部５４の先端縁をガイドすることによってノズル部５０の左右移動を規制する左右移動規制リブ７２ｂと、を備えて構成されている。

【００３９】

挟持用リブ７２ａ及び左右移動規制リブ７２ｂは、環状装着部２１の内周から内方に向けて起立している。

前側の挟持用リブ７２ａは、被ガイド部５４よりも前方から斜め後方に向けて起立しており、後側の挟持用リブ７２ａは、被ガイド部５４よりも後方から斜め前方に向けて起立しており、これら前後の挟持用リブ７２ａの起立方向における先端部によって被ガイド部５４が前後から挟持されている。

左右移動規制リブ７２ｂは、被ガイド部５４と同一平面上に配置されている。

左側のガイド部７２の左右移動規制リブ７２ｂは、左側の被ガイド部５４の左方から右方に向けて起立しており、当該左右移動規制リブ７２ｂの起立方向における先端部によって、左側の被ガイド部５４の左端部をガイドしている。

同様に、右側のガイド部７２の左右移動規制リブ７２ｂは、右側の被ガイド部５４の右方から左方に向けて起立しており、当該左右移動規制リブ７２ｂの起立方向における先端部によって、右側の被ガイド部５４の右端部をガイドしている。

【００４０】

カバー部２０の前端部には、例えば、平板状の前面起立壁部２４が形成されている。なお、前面起立壁部２４は、前方に向けて凸または凹（後方に向けて凸）に僅かに湾曲していてもよい。前面起立壁部２４は、板面が略鉛直に起立しており、前面起立壁部２４の前面は前方を向いている。前面起立壁部２４の前面は、カバー部２０の前端面である。なお、ヒンジ部４１の一部分が前面起立壁部２４よりも前方に突出していても良い。

図３に示すように、前面起立壁部２４の前面は、容器本体１０の前端よりも後方に配置されている。

このように、カバー部２０の前端面（前面起立壁部２４の前面）は、容器本体１０の前端よりも後方に位置していて前方を向いている。

そして、カバー部２０の全体が容器本体１０の前端よりも後方に配置されている。

【００４１】

前後方向における前面起立壁部２４の位置は、例えば、環状装着部２１の前端位置と同等の位置に設定されている。

前面起立壁部２４は、環状装着部２１よりも上方に起立しており、且つ、環状装着部２１よりも下方に垂下している。

また、前面起立壁部２４の左右幅は、例えば、環状装着部２１の左右幅よりも若干小さい程度の幅に設定されている。ただし、前面起立壁部２４の左右幅は、環状装着部２１の左右幅と同等であってもよいし、環状装着部２１の左右幅以上であってもよい。

【００４２】

操作部３０は、カバー部２０の前面起立壁部２４の上端部に対して、ヒンジ部４１（軸支部）において軸支されている。例えば、前面起立壁部２４の左右両端部にそれぞれヒンジ部４１が配置されており、これら左右一対のヒンジ部４１により操作部３０がカバー部２０に対して軸支されている。

なお、各ヒンジ部４１の軸方向は、左右方向に延在しており、且つ、互いに同軸に配置されている。

【００４３】

本実施形態の場合、カバー部２０と操作部３０とは一体成形されている。すなわち、エアゾール容器１００は、カバー部２０と操作部３０とを含む１個の合成樹脂成形部材であるカバーユニット４０を備えている。

そして、ヒンジ部４１は、カバーユニット４０が部分的に薄肉に成形されることにより構成された薄肉ヒンジである。

ただし、本発明は、この例に限らず、カバー部２０と操作部３０とは互いに別体に成形

されていて、蝶番により構成されたヒンジ部４１を介して操作部３０がカバー部２０に対して軸支されていてもよい。

【００４４】

なお、図８等に示すように、カバーユニット４０において、カバー部２０と操作部３０との境界部位には、開口４２が形成されており、この開口４２によって左右一対のヒンジ部４１が相互に分断されている。

開口４２は、前面起立壁部２４をヒンジ部４１よりも下方まで切り欠いた形状に形成されており、ノズル部５０が押し下げられた際に第２筒部５２と前面起立壁部２４とが干渉しないようになっている。

また、開口４２は、操作部３０の前部に形成された切欠形状部３７（後述）を含んでいる。操作部３０に切欠形状部３７が形成されていることによって、ノズル部５０の第２筒部５２と操作部３０とが干渉しないようになっている。

【００４５】

操作部３０は、下向きに開口している椀型、皿形ないしはドーム形状の操作部本体３１を有している。

操作部本体３１の上面には、図３に示すように側面視において下方に窪んだ形状の凹部３３が形成されている。

凹部３３は、使用者に押圧される押圧部である。凹部３３は、操作部本体３１の後端部に配置されている。

また、凹部３３の後端３３ａは、環状装着部２１よりも後方に配置されている。

操作部３０は、当該操作部３０の前縁の中央部から後方に向けて切り欠かれた形状の切欠形状部３７を有している。

【００４６】

操作部３０は、操作部本体３１の左右両側縁部からそれぞれ斜め下方に延びているスカート部３２を有している。スカート部３２の下端部は、図３に示すように環状装着部２１の上端よりも下方に位置しており、且つ、図５に示すように平面視において環状装着部２１よりも側方に張り出している。

このように、操作部３０は、ノズル部５０の上方を覆っており、且つ、操作部３０において前後方向に対して直交する左右方向における両端部の各々（各スカート部３２）は、カバー部２０において容器本体１０に装着される部位である環状装着部２１の上端よりも下方に延びていて、且つ平面視において環状装着部２１よりも外方に張り出している。

【００４７】

図７及び図８等に示すように、操作部３０は、操作部本体３１の内面（下面）から下方に垂下している左右一対の板状のリブ３４を有している。各リブ３４の板面は左右を向いている。

リブ３４の後部には、カバー部２０の係止突出部７１の係止爪部７１ａが係止される係止孔３５が形成されている。

図７に示すように、各リブ３４の各係止孔３５に対して、各係止突出部７１の係止爪部７１ａが係止されている。これにより、操作部３０が図８のように開いてしまうことが規制されている。

【００４８】

ここで、一対のリブ３４どうしの対向間隔は、例えば、左右方向における第２筒部５２の寸法（幅寸法）よりも若干広い程度に設定されている（図５参照）。このため、ノズル部５０の第２筒部５２が一対のリブ３４によって位置決めされ、ステム１５の軸周りにおいて、カバー部２０ひいてはカバーユニット４０の全体に対するノズル部５０の回転角度が一定に維持されるようになっている。

【００４９】

なお、上記のように、ノズル部５０は、ステム１５に対して相対的にステム１５の軸周りに回転可能となっているとともに、カバーユニット４０は容器本体１０に対して容器本体１０の胴部１１の軸周りに回転可能となっている。また、ステム１５と容器本体１０の

胴部１１とは互いに同軸に配置されている。このため、カバーユニット４０を容器本体１０に対して回転させることにより、カバーユニット４０に伴わせてノズル部５０を回転させることができ、これにより、容器本体１０に対するノズル部５０の向きを自由に変更できるようになっている。

【００５０】

また、リブ３４の前部には、ノズル部５０の突起部５３に対して係合する切欠形状部３６が形成されている。

上記のように各リブ３４の各係止孔３５に対して各係止突出部７１の係止爪部７１ａが係止された状態で、図３に示すように、各リブ３４の切欠形状部３６がノズル部５０の各突起部５３に対して係合している。

これら切欠形状部３６は、操作部３０が使用者により押圧（押下）された際に、操作部３０からノズル部５０の突起部５３に押圧力（押下力）を伝達する伝達部である。この伝達部は、操作部３０から、ノズル部５０を介して、ステム１５に押圧力（押下力）を伝達する。

使用者が操作部３０を押下することにより、ノズル部５０を介してステム１５が押下されるため、ステム１５から内容物が吐出され、この内容物はノズル部５０の吐出口５０ａから吐出される。

なお、操作部３０が押下される際、各係止突出部７１の係止爪部７１ａは、各リブ３４の係止孔３５内でリブ３４に対して相対的に上方に移動する。

【００５１】

上記のように、操作部３０はカバー部２０に対して軸支されている。ノズル部５０は、容器本体１０の径方向における一方向に向けてステム１５から突出している。ノズル部５０の突出方向を前方とすると、図３等に示すように、カバー部２０に対する操作部３０の軸支部（ヒンジ部４１）は、操作部３０の前端部に配置されている。

また、操作部３０において使用者に押圧される押圧部（凹部３３）は、操作部３０において押圧力をステム１５に伝達する伝達部（切欠形状部３６）よりも後方に配置されている。

これにより、使用者が操作部３０の凹部３３を押下することによって、テコの原理によりステム１５を軽い力で押し下げることができる。本実施形態の場合、前後方向において、切欠形状部３６及び突起部５３が、凹部３３とヒンジ部４１とのほぼ中間位置に配置されており、直にステム１５を押下する場合と比べて、およそ半分程度の力で凹部３３を押下することによって、ステム１５を押し下げることができるようになっている。

【００５２】

また、上記のように、カバー部２０は、容器本体１０の後部に配置されていて後方に向けて突出している後方突出部（後方突出壁部２７）を有する。

また、カバー部２０は、マウンテンカップ１４に装着される環状装着部２１を有する。

そして、図３に示すように、操作部３０の押圧部（凹部３３）の後端３３ａが環状装着部２１よりも後方に配置されており、後方突出部（後方突出壁部２７）が押圧部（凹部３３）の後端３３ａよりも後方に配置されている。

ここで、後方突出壁部２７の少なくとも一部分が凹部３３の後端３３ａよりも後方に配置されていればよいが、後方突出壁部２７の全体が凹部３３の後端３３ａよりも後方に配置されていることが好ましい。

【００５３】

また、ノズル部５０は、伝達部（操作部３０の切欠形状部３６）から押圧力を受ける受部（突起部５３）と、被ガイド部５４と、を有している。

上述のように、カバー部２０は、被ガイド部５４を上下に直線的にガイドするガイド部７２を備えている。そして、操作部３０の伝達部からノズル部５０の受部に押圧力が加わることにより、ガイド部７２によって被ガイド部５４がガイドされつつ、ノズル部５０を介してステム１５が押圧される。

【００５４】

なお、後方突出壁部２７は、操作部本体３１の後端よりも後方に突出している。したがって、後方突出壁部２７は、押圧部である凹部３３よりも後方に突出している。

【００５５】

操作部３０の良好な操作性を実現するため、操作部３０の左右幅寸法の最大値は、例えば、巻締部１３の外径の１／２以上であることが好ましく、３／４以上であることがより好ましく、巻締部１３の外径以上であることが更に好ましい。

操作部３０の良好な操作性を実現するため、操作部３０の前後寸法の最大値は、例えば、巻締部１３の外径の１／２以上であることが好ましく、３／４以上であることがより好ましく、巻締部１３の外径以上であることが更に好ましい。

本実施形態の場合、操作部３０の左右幅寸法の最大値、及び、操作部３０の前後寸法の最大値は、それぞれ巻締部１３の外径よりも大きい。

【００５６】

エアゾール容器１００は、例えば、図１０（ａ）及び図１０（ｂ）に示すキャップ８０を更に備えている。

キャップ８０は、下方に向けて開放している凹部８０ａを有している。図１０（ａ）及び図１０（ｂ）に示すように、キャップ８０は、カバー部２０の上部、操作部３０及びノズル部５０を覆うようにして、カバー部２０に対して着脱可能に装着される。

キャップ８０は、例えば、操作部３０とカバー部２０の上部とを覆うキャップ本体８１と、ノズル部５０において操作部３０及びカバー部２０から前方に突出している部分を覆うノズル収容部８２と、を備えている。

【００５７】

エアゾール容器１００は、以上のように構成されている。

ここで、エアゾール容器１００の各構成から容器本体１０（及びその内容物）を除いたものが、本実施形態に係るアタッチメント２００である。

すなわち、本実施形態に係るアタッチメント２００は、エアゾール容器の容器本体１０に装着されるアタッチメントである。アタッチメント２００は、容器本体１０の上端部を構成するマウンテンカップ１４に取り付けられるカバー部２０と、使用者による押圧操作を受け付ける操作部３０と、吐出口５０ａを有しステム１５に取り付けられるノズル部５０と、を備えている。

カバー部２０がマウンテンカップ１４に取り付けられた状態で、カバー部２０の下縁は指掛け部を含み、指掛け部は、容器本体１０の少なくとも半周に亘って配置される。

アタッチメント２００は、例えば、上述のカバーユニット４０とノズル部５０とにより構成されており、更に、上述のキャップ８０を含んでいてもよい。

【００５８】

次に、動作を説明する。

【００５９】

エアゾール容器１００の操作は、例えば、指掛け部のいずれかの部位に対して指を引っ掛けて、この指から反力を得つつ、他の指で操作部３０の凹部３３を押し下げることによって行うことができる。

エアゾール容器１００においては、カバー部２０の下縁に形成された指掛け部（左右の切欠形状部２６、左右の中間指掛け部２８ａ及び後方指掛け部２７ａの集合体）は、容器本体１０の少なくとも半周に亘って配置されているため、指掛け部に対して指を掛ける位置の選択の自由度が高い。よって、手の大きさや指の長さ、握力などに応じて、適切な方法で指掛け部に対して指を掛けて、操作部３０を操作することができるので、エアゾール容器１００の落下を抑制できる。

【００６０】

このようなエアゾール容器１００は、例えば、浴室の中で洗髪した後で用いることが想定される。この場合、滑りやすい濡れた手でエアゾール容器１００を操作することになるが、エアゾール容器１００は上述した構成であるため、濡れた手でも安定的にエアゾール容器１００を把持し、操作することが容易となる。

特に、内容物が染毛剤の場合、手袋をはめた手でエアゾール容器１００を操作することも想定され、より一層手が滑りやすくなるが、そのような場合でも、エアゾール容器１００の良好な操作性が得られる。

【００６１】

エアゾール容器１００の操作は、例えば、図１１に示すように、片方の手６０でエアゾール容器１００を把持して凹部３３を押し下げることにより行うことができる。より詳細には、例えば、手６０の親指６１を一方の切欠形状部２６に対して下側からあてがうとともに、図示はしないが手６０の中指を他方の切欠形状部２６に対して下側からあてがい、手６０の人差し指６２によって凹部３３を押し下げることによって、エアゾール容器１００から内容物を吐出させることができる。吐出された内容物は、他方の手で受け取ることができる。

【００６２】

このとき、操作部３０の凹部３３がステム１５よりも後方に位置するため、エアゾール容器１００には、親指６１の腹と中指の腹を支点として後傾する（後方に回転する）方向のモーメントが作用する。ただし、親指６１及び中指がそれぞれ左右の切欠形状部２６にあてがわれているため、切欠形状部２６の前向き壁部２６ａが親指６１及び中指に当接することによって、エアゾール容器１００の後傾（回転）が規制される。よって、エアゾール容器１００の姿勢を安定させて、操作部３０の凹部３３を押し下げることができる。

【００６３】

また、カバー部２０は、側面視において前方かつ下方に向けて開放している切欠形状部２６を有するので、指（例えば親指６１と中指）の滑り止め効果を向上することできる。

切欠形状部２６の触感をソフトにすることができるので、手が水を吸収して傷つきやすくなっていても、手を安心して切欠形状部２６にあてがうことができる。

【００６４】

また、切欠形状部２６は下向き壁部２６ｂを有するため、親指６１及び中指が下向き壁部２６ｂに当接することによって、凹部３３を押し下げる力に対する反力を効率的に得ることができる。

【００６５】

また、カバー部２０は、容器本体１０の後部に配置されていて後方に向けて突出している後方突出部（後方突出壁部２７）を有し、後方突出壁部２７は凹部３３の後端３３ａよりも後方に配置されている。よって、エアゾール容器１００を手６０で把持したときに、手の平から凹部３３を押し下げる指（人差し指６２）にかけての部位が自然に後方にオフセットされた状態となる。よって、操作部３０の凹部３３の後端３３ａが環状装着部２１よりも後方に配置されていても、凹部３３がステム１５の直上に配置されている場合と同じ感覚でエアゾール容器１００を把持して凹部３３を押し下げることができる。

【００６６】

また、カバー部２０の全体が容器本体１０の前端よりも後方に配置されているので、ノズル部５０から吐出された内容物を受け取る手をよりノズル部５０の直下に近づけることができる。よって、内容物を手からこぼしにくくなる。また、内容物が手からこぼれた場合でも、こぼれた内容物はカバー部２０ではなく缶の容器本体１０に付着するため、内容物を簡単に洗い流すことができる。

【００６７】

なお、エアゾール容器１００の操作方法は、図１１に示す例に限らず、例えば、一方の手の親指以外の指（人差し指や中指）を下方から後方指掛け部２７ａに引っ掛け、一方の手の親指で凹部３３を押し下げる方法であってもよい。または、一方の手の親指を下方から後方指掛け部２７ａに引っ掛け、一方の手の親指以外の指（人差し指や中指）で凹部３３を押し下げる方法であってもよい。

後方指掛け部２７ａは容器本体１０の後面よりも後方に離間して配置されているため、これらの操作方法を行う際に、後方指掛け部２７ａに対して安定的に指を引っ掛けることができる。

特に、後方突出壁部２７の内部空間が下方に向けて開放している、すなわち後方指掛け部２７ａと容器本体１０との間に開口が形成されているため、より一層、後方指掛け部２７ａに対して安定的に指を引っ掛けることができる。

【００６８】

また、カバー部２０は、ノズル部５０の被ガイド部５４を上下に直線的にガイドするガイド部７２を備え、操作部３０の伝達部（切欠形状部３６）からノズル部５０の受部（突起部５３）に押圧力が加わることにより、ガイド部７２によって被ガイド部５４がガイドされつつ、ノズル部５０を介してステム１５が押圧され、操作部３０を押し下げる際にステム１５は傾かずに鉛直下方へ移動するので、ステム１５やそれに繋がるバルブ機構等（図示なし）に対してモーメント力などの無理な荷重を掛けることなく、ステム１５を押し下げることができる。このことにより、使用時にステム１５を含むバルブ機構への負荷を低減できると共に、操作部３０からノズル部５０を介してステム１５に伝達される力のロスを低減できる。

【００６９】

なお、操作部３０は、ノズル部５０の上方を覆っており、且つ、カバー部２０において前後方向に対して直交する左右方向における両端部の各々（各スカート部３２）は、カバー部２０において容器本体１０に装着される部位である環状装着部２１の上端よりも下方に延びていて、且つ平面視において環状装着部２１よりも外方に張り出している。これにより、マウンテンカップ１４の上面に水などが浸入することをスカート部３２によってガードすることができる。

【００７０】

以上のような実施形態によれば、カバー部２０の下縁は指掛け部（左右の切欠形状部２６、左右の中間指掛け部２８ａ及び後方指掛け部２７ａの集合体）を含み、指掛け部は、容器本体１０の少なくとも半周に亘って配置されているため、良好な操作性を実現することができる。すなわち、指掛け部に対して指を掛ける位置の選択の自由度が高まるため、手の大きさや指の長さ、握力などに応じて、適切な方法で指掛け部に対して指を掛けて、操作部３０を操作することが可能となる。

【００７１】

〔第２実施形態〕

次に、図１２から図１４を用いて第２実施形態を説明する。

本実施形態に係るエアゾール容器１００及びアタッチメント２００は、以下に説明する点で、上記の第１実施形態に係るエアゾール容器１００及びアタッチメント２００と相違しており、その他の点では、上記の第１実施形態に係るエアゾール容器１００及びアタッチメント２００と同様に構成されている。

【００７２】

図１２から図１４に示すように、本実施形態の場合、カバー部２０は、第１実施形態における張出部２２及び下方延出壁部２３（切欠形状部２６、下方延出壁部２３、後方突出壁部２７及び突出部２３ａ）を備えていない代わりに、傘部２９及び指掛け部２５を有している。

【００７３】

傘部２９は、環状装着部２１の下縁から平面視において外方且つ斜め下方に向けて張り出している円錐台状の部分である。

ただし、傘部２９は、容器本体１０の前端部には配置されておらず、平面視において前向きに開放したＣ環状に形成されている（図１２）。

【００７４】

図１２に示すように、指掛け部２５は、傘部２９の下縁から平面視において外方に向けて張り出している（突出している）。なお、容器本体１０の外面からの指掛け部２５の突出量は、カバー部２０における指掛け部２５以外の部分の肉厚よりも大きい。本実施形態の場合、傘部２９の外面からの指掛け部２５の突出量も、カバー部２０における指掛け部２５以外の部分の肉厚よりも大きい。

【００７５】
指掛け部２５は、傘部２９の前端部を除く部位の下縁に設けられていて水平に配置されている水平部２５ａと、傘部２９の前端部に設けられている起立部２５ｂと、を含んで構成されている。
図１２に示すように、水平部２５ａは、平面視において前向きに開放したＣ環状に形成されている。水平部２５ａの周方向における両端部は、左右に並んで配置されている。
図１２に示すように、水平部２５ａの両端部にそれぞれ起立部２５ｂが連接されている。
図１３に示すように、一方の起立部２５ｂは、水平部２５ａの一方の端部から上方に向けて起立している。また、他方の起立部２５ｂは、水平部２５ａの他方の端部から上方に向けて起立している。
なお、前後方向において、前面起立壁部２４と起立部２５ｂとは同等の位置に配置されている。
図１４に示すように、本実施形態の場合、カバー部２０の前端面の下縁（前面下縁２０１）は、上に凸の弧状に形成されており、前面下縁２０１の左右方向における両端部の高さ位置は、当該前面下縁２０１の左右方向における中央部よりも低くなっている。
【００７６】
本実施形態の場合も、指掛け部２５は、容器本体１０の少なくとも半周に亘って配置されている
より詳細には、図１２に示すように、本実施形態の場合、指掛け部２５は、容器本体１０の周方向において約２６０度の範囲（図１２に示す角度αの範囲）に亘って連続的に配置されている。
したがって、指掛け部２５は、容器本体１０の半周以上に亘って連続的に配置されている。
ただし、指掛け部２５は、カバー部２０の前部には配置されていない。すなわち、指掛け部はカバー部２０の前部を除く部位に配置されている。
【００７７】
なお、本実施形態においても、前面起立壁部２４の前面は前方を向いており、前面起立壁部２４の前面はカバー部２０の前端面である。図１３に示すように、前面起立壁部２４の前面は、容器本体１０の前端よりも後方に配置されている。
そして、カバー部２０は容器本体１０の前端よりも後方に配置されている。
【００７８】
また、本実施形態の場合、カバー部２０は、ガイド部７２を備えていない。また、ノズル部５０は被ガイド部５４を備えていない。
また、操作部３０は、スカート部３２を備えていない。本実施形態の場合、操作部３０の左右幅寸法の最大値は、巻締部１３の外径の３／４以上であるが、巻締部１３の外径未満となっている。
【００７９】
次に、動作を説明する。
【００８０】
本実施形態の場合も、エアゾール容器１００の操作は、例えば、指掛け部２５のいずれかの部位に対して指を引っ掛けて、この指から反力を得つつ、他の指で操作部３０の凹部３３を押し下げることによって行うことができる。
よって、指掛け部２５は容器本体１０の少なくとも半周に亘って配置されているため、指掛け部２５に対して指を掛ける位置の選択の自由度が高く、エアゾール容器１００の良好な操作性を実現することができる。
【００８１】
また、カバー部２０は容器本体１０の前端よりも後方に配置されているので、ノズル部５０から吐出された内容物を受け取る手をよりノズル部５０の直下に近づけることができる。よって、内容物を手からこぼしにくくなる。また、内容物が手からこぼれた場合でも

、こぼれた内容物はカバー部２０ではなく缶の容器本体１０に付着するため、内容物を簡単に洗い流すことができる。

【００８２】

本発明は上述の実施形態に限定されるものではなく、本発明の目的が達成される限りにおける種々の変形、改良等の態様も含む。

【００８３】

例えば、上記においては、吐出口５０ａがノズル部５０の先端において前方に向けて開口している例を説明したが、吐出口５０ａはノズル部５０の先端において下方に向けて開口していても良い。

【００８４】

また、上記においては、カバーユニット４０が容器本体１０に対して回転可能である例を説明したが、カバーユニット４０は容器本体１０に対して回転不能に固定されていても良い。

【００８５】

また、エアゾール容器１００は、キャップ８０を有していなくても良い。

【００８６】

上記実施形態は、以下の技術思想を包含する。

＜１＞容器本体の上端部を構成するマウンテンカップに取り付けられているカバー部と、

使用者による押圧操作を受け付ける操作部と、

ステムに取り付けられていて吐出口を有するノズル部と、

を備え、

前記カバー部の下縁は指掛け部を含み、

前記指掛け部は、前記容器本体の少なくとも半周に亘って配置されているエアゾール容器。

＜２＞前記ノズル部は、前記容器本体の径方向における一方向に向けて前記ステムから突出しており、

前記ノズル部の突出方向を前方とすると、前記カバー部は、前後方向に対して直交する左右方向における両端部の各々に配置されていて前側を向き前記指掛け部の一部分を構成する前向き壁部を含む＜１＞に記載のエアゾール容器。

＜３＞前記カバー部は、左右方向における両端部の各々に配置されていて前方かつ下方に向けて開放している弧状の切欠形状部を有し、

前記前向き壁部は、前記切欠形状部の後部により構成されている＜２＞に記載のエアゾール容器。

＜４＞前記指掛け部は、前記切欠形状部の前部により構成されていて下側を向く下向き壁部を含む＜３＞に記載のエアゾール容器。

＜５＞前記操作部は前記カバー部に軸支されており、

前記ノズル部は、前記容器本体の径方向における一方向に向けて前記ステムから突出しており、

前記ノズル部の突出方向を前方とすると、前記カバー部に対する前記操作部の軸支部は、前記カバー部の前端部に配置されており、

前記操作部において使用者に押圧される押圧部は、前記操作部において押圧力を前記ステムに伝達する伝達部よりも後方に配置されている＜１＞から＜４＞のいずれか一項に記載のエアゾール容器

＜６＞前記カバー部は、前記容器本体の後部に配置されていて後方に向けて突出している後方突出部を有し、

前記カバー部は、前記マウンテンカップに装着される環状装着部を有し、

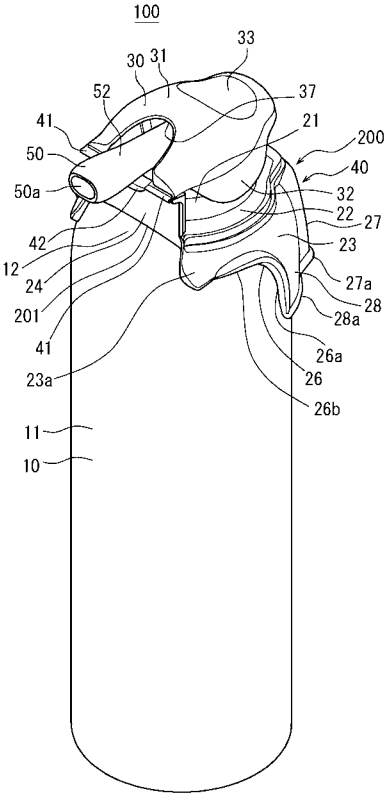
前記押圧部の後端が前記環状装着部よりも後方に配置されており、前記後方突出部が前記押圧部の後端よりも後方に配置されている＜５＞に記載のエアゾール容器。

＜７＞前記後方突出部の下縁は、前記指掛け部の一部分を構成している＜６＞に記載のエアゾール容器。

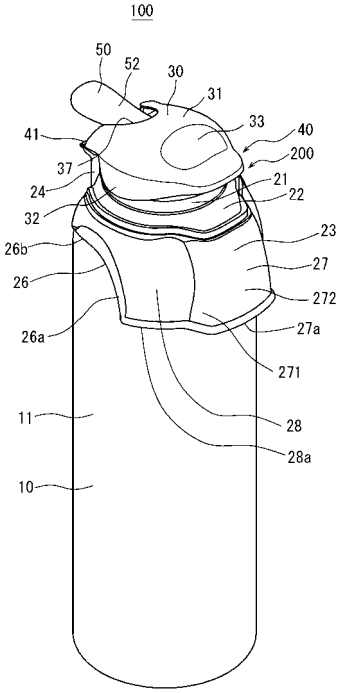
＜８＞前記ノズル部は、
前記伝達部から押圧力を受ける受部と、
被ガイド部と、
を有し、
前記カバー部は、前記被ガイド部を直線的に上下にガイドするガイド部を備え、
前記操作部の前記伝達部から前記ノズル部の前記受部に押圧力が加わることにより、前記ガイド部によって前記被ガイド部がガイドされつつ、前記ノズル部を介して前記ステムが押圧される＜５＞から＜７＞のいずれか一項に記載のエアゾール容器。
＜９＞前記ノズル部は、前記容器本体の径方向における一方向に向けて前記ステムから突出しており、
前記ノズル部の突出方向を前方とすると、前記カバー部の全体が前記容器本体の前部を除く部位に配置されている＜１＞から＜８＞のいずれか一項に記載のエアゾール容器。
＜１０＞エアゾール容器の容器本体に装着されるアタッチメントであって、
容器本体の上端部を構成するマウンテンカップに取り付けられるカバー部と、
使用者による押圧操作を受け付ける操作部と、
吐出口を有し、ステムに取り付けられるノズル部と、
を備え、
前記カバー部が前記マウンテンカップに取り付けられた状態で、前記カバー部の下縁は指掛け部を含み、前記指掛け部は、前記容器本体の少なくとも半周に亘って配置されるアタッチメント。
【符号の説明】
【００８７】
１０　容器本体
１１　胴部
１２　肩部
１３　巻締部
１４　マウンテンカップ
１５　ステム
１６　底部
２０　カバー部
２０１　前面下縁
２１　環状装着部
２１ａ　凹部
２２　張出部
２３　下方延出壁部
２３ａ　突出部
２４　前面起立壁部
２５　指掛け部
２５ａ　水平部
２５ｂ　起立部
２６　切欠形状部
２６ａ　前向き壁部
２６ｂ　下向き壁部
２７　後方突出壁部
２７ａ　後方指掛け部
２７１　後方起立壁部
２７２　背面壁部
２８　中間部
２８ａ　中間指掛け部
２９　傘部

３０　操作部
３１　操作部本体
３２　スカート部
３３　凹部（押圧部）
３３ａ　後端
３４　リブ
３５　係止孔
３６　切欠形状部（伝達部）
３７　切欠形状部
４０　カバーユニット
４１　ヒンジ部（軸支部）
４２　開口
５０　ノズル部
５０ａ　吐出口
５１　第１筒部
５２　第２筒部
５３　突起部
５４　被ガイド部
６０　手
６１　親指
６２　人差し指
７１　係止突出部
７１ａ　係止爪部
７２　ガイド部
７２ａ　挟持用リブ
７２ｂ　左右移動規制リブ
８０　キャップ
８０ａ　凹部
８１　キャップ本体
８２　ノズル収容部
１００　エアゾール容器
２００　アタッチメント

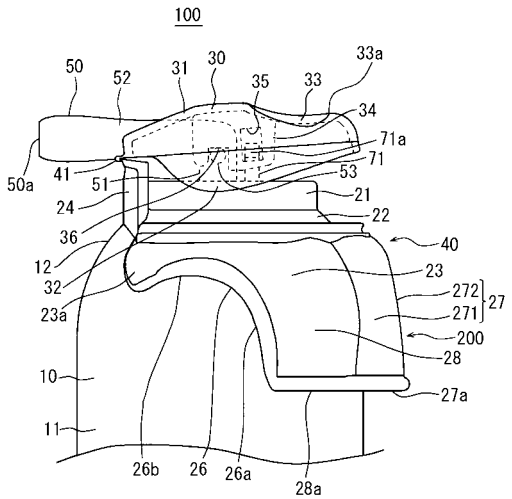
【図１】


100
33
30
31
52
37
41
21
200
50
40
50a
32
22
27
42
23
12
24
27a
28
201
28a
41
26a
23a
26
26b
11
10

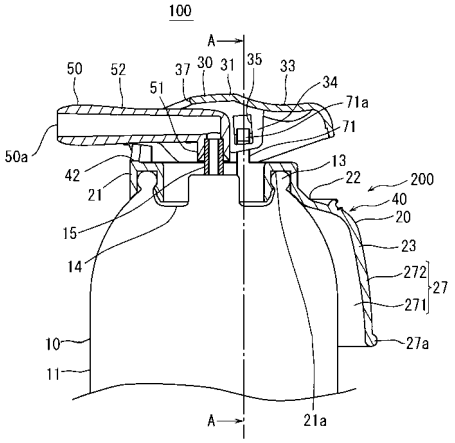
【図２】


100
50
52
30
31
41
33
40
200
37
21
24
22
32
23
26b
27
26
272
26a
27a
271
11
28
28a
10

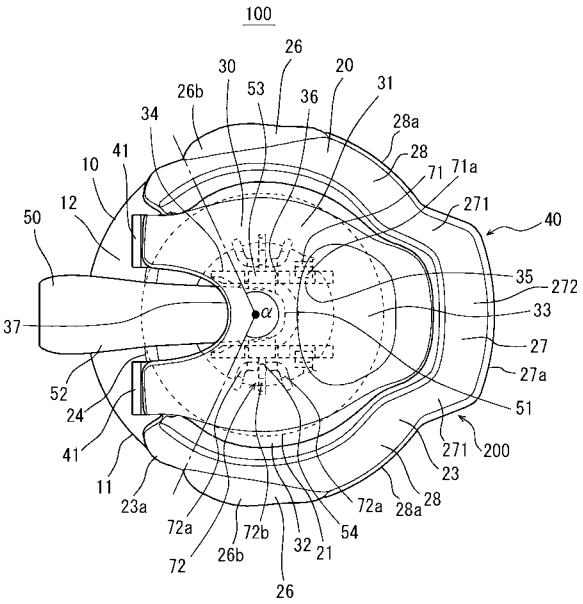
【図３】


100
50
52
31
30
35
33
33a
34
71a
71
50a
41
53
51
21
24
22
36
40
12
23
32
272
27
23a
271
200
28
10
27a
11
26b
26
26a
28a

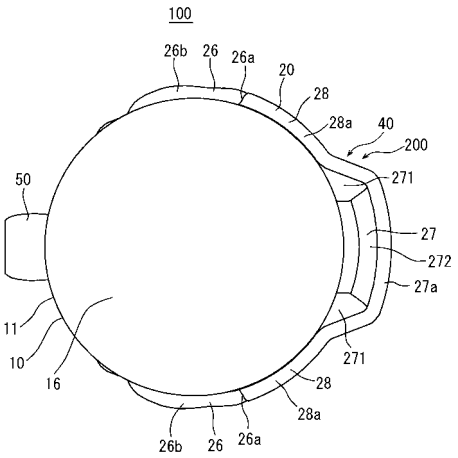
【図４】


100
A
50
52
37
30
31
35
33
51
34
71a
71
50a
42
13
22
200
21
40
20
15
23
14
272
27
271
10
27a
11
A
21a

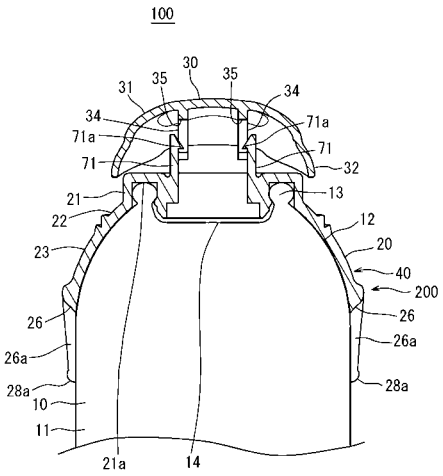
【図５】


100
26
30
20
53
36
31
26b
34
28a
28
41
10
71
71a
12
271
40
50
35
272
37
α
33
27
27a
52
51
24
41
271
200
11
23
23a
72a
28a
28
72a
72b
54
72
26b
32
21
26

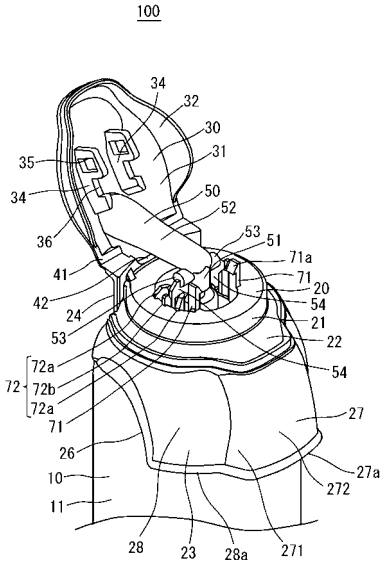
【図６】


100
26b
26
26a
20
28
28a
40
200
271
50
27
272
27a
11
271
10
28
16
28a
26b
26
26a

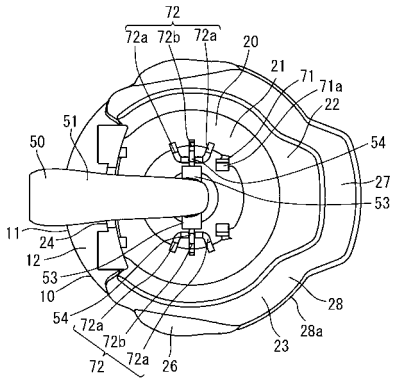
【図７】


100
30
31
35
35
34
34
71a
71a
71
71
32
21
13
22
12
23
20
40
200
26
26
26a
26a
28a
28a
10
11
21a
14

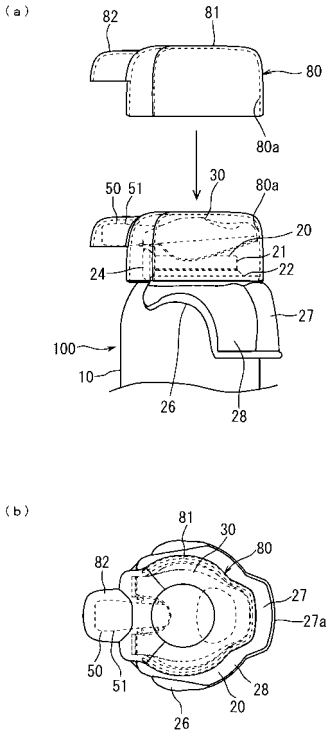
【図８】


100
34
32
30
31
35
50
34
52
53
36
51
71a
41
71
20
42
54
24
21
53
22
72a
54
72
72b
72a
71
27
26
27a
10
272
11
28
23
28a
271

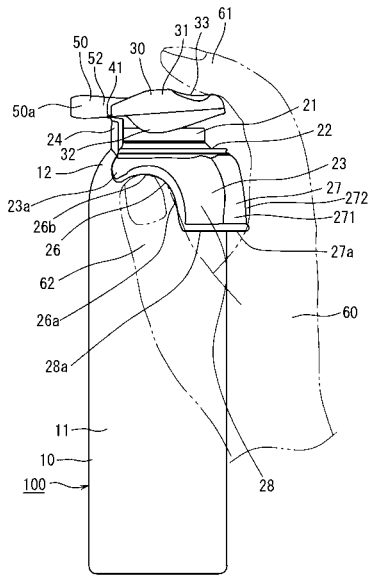
【図９】



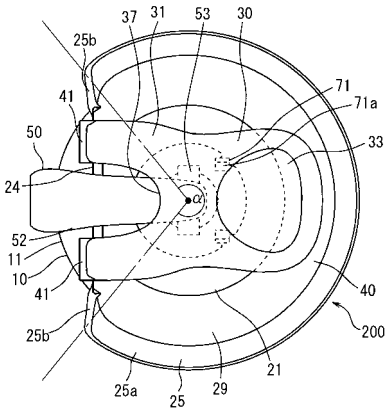
【図１０】



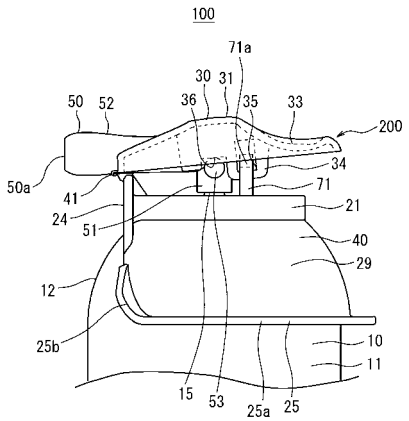
【図１１】



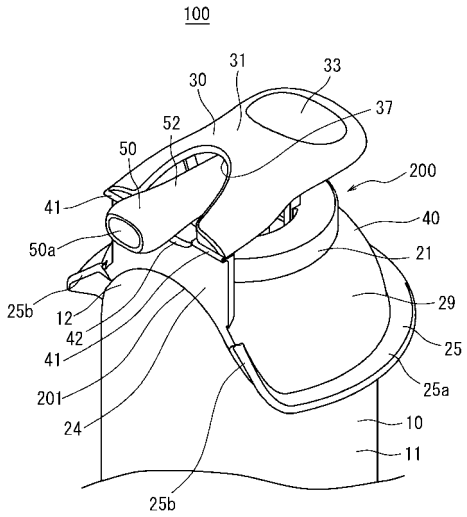
【図１２】



【図１３】


100
71a
30
31
36
35
33
50
52
200
34
50a
41
71
24
51
21
40
29
12
25b
10
11
15
53
25a
25

【図１４】


100
31
33
30
37
52
50
200
41
40
50a
21
25b
29
12
42
25
41
25a
201
10
24
11
25b